

平成30年度事業報告について

<はじめに>

平成30年はかつて「蝦夷地」と呼ばれていた本道が「北海道」と命名されて150年に当たり、道内各地では様々な記念セレモニーや事業が計画・展開されました。一方、9月6日に発生した北海道胆振東部地震では震源地を中心に多くの尊い命が失われ、その後全道一円を襲ったブラックアウトは観光分野を含む北海道経済に大きな影響を与えました。

そのような中、当協会は観光客やMICEの誘致、様々な機会、媒体を通じて旭川地域のPRや観光情報の発信、さらには、当協会が実行委員会の事務局を担う各種イベントの実施などに取り組んでまいりました。事業の推進にあたり、役員各位には4委員会（総務、コンベンション・誘致、観光情報、企画・事業の各委員会）を通して企画立案段階から、また、具体的な事業では多くの会員の方々にご支援、ご協力をいただいたことに感謝を申し上げます。

旭川市が5月24日に発表した平成30年度の観光入込客数（次ページ「別掲」参照）によると、日帰り、通過客を含めた総体の観光入込客数は前年度よりも微減（△1.6%）となりましたが、宿泊延数は1,083,100泊で対前年度比15.8%、外国人宿泊延数も244,515泊で同18.8%のそれぞれ増加となり、いずれも過去最高となりました。

「旭川冬まつり」が第60回目という節目の年に当たる一方で、旭川経済や観光にとって大きな影響を与える幾つかの事柄が動いた年でもありました。

その一つは旭川空港です。国際便の増加に伴って、狭隘であるなど長年の懸案となっていた国際線ターミナルは、昨年11月に機能を大幅に拡充して供用が開始され、また、道内7空港で進めている空港運営の一括民間委託化についてはいよいよ最終局面を迎えています。

また、旭川をはじめとする上川中部1市6町が参画し、新たな観光地域づくりを目指す日本版DMO法人「大雪カムイミンタラDMO」が本格的に始動。近郊の他スキー場などと連携しながら冬季スノーリゾート地域を目指し、法人自らが「カムイスキーリンクス」の運営を担った初年度でした。同法人には今後、四季が明瞭で豊かな自然や新鮮な一次産品を素材とした多様な食、優れたものづくり産業や高度な医療技術を擁する程よい都市機能などの本地域の特性を最大限に生かして、新たな観光地域づくりに向けて牽引的な役割を果たしていくことが期待されているところです。

この他にも当圏域内では、大雪山周辺のアイヌ文化が日本自然遺産として文化庁の指定を受け、また、日本ジオパークの認定を目指す取り組みなど、これまでは見られなかった地域の持つ魅力にさらに磨きをかけながら発信していこうとする広域的な取り組みが進められており、当協会も積極的に参加しているところです。

こうしたことを背景に、平成30年度に実施してきた個々の事業等を以下ご説明いたします。

平成30年度観光入込客数について

〔令和元年5月24日発表〕
観光スポーツ交流部観光課

1 観光入込客数

5,270,500人（対前年同期比98.4%）

・平成29年度 5,357,000人（対前年同期比100.9%）

・平成28年度 5,310,000人（対前年同期比96.0%）

2 宿泊延数

1,083,100泊（対前年同期比115.8%）

・平成29年度 935,600泊（対前年同期比109.2%）

・平成28年度 857,100泊（対前年同期比106.2%）

3 外国人宿泊延数

244,515泊（対前年同期比118.8%）

・平成29年度 205,764泊（対前年同期比109.2%）

・平成28年度 188,365泊（対前年同期比123.8%）

4 内訳

区 分	観光入込客数 (人)			宿泊延数 (泊)	外国人宿泊延数 (泊)
	うち道外客(人)	うち道内客(人)			
平成30年度	5,270,500	2,784,800	2,485,700	1,083,100	244,515
平成29年度	5,357,000	2,666,000	2,691,000	935,600	205,764
平成28年度	5,310,000	2,519,400	2,790,600	857,100	188,365

5 特徴

観光入込客数は前年度を下回ったが、宿泊延数、外国人宿泊延数は前年度を上回り、宿泊延数、外国人宿泊延数については過去最高を更新した。

日帰り・通過客を含む観光入込客数は、道外客が増加したものの道内客が減少し、全体では対前年度1.6%の微減となった。

道外客の増加に伴い、宿泊延数は対前年度15.8%の増加となり4年連続で過去最高を更新した。

外国人宿泊延数は、対前年度18.8%の増加となり5年連続で過去最高を更新した。

国・地域別では、中国が前年度に比べ7.4%減少したものの最も多く、次いで重点的にプロモーションを行っているタイや旭川空港に直行便のある台湾が続き、香港、韓国の順となった。

◆国（地域）別の宿泊延数は以下のとおり。（ ）内は前年度

1位 中国	54,910泊（59,330泊）	対前年度比 92.6%
2位 タイ	50,407泊（25,463泊）	198.0%
3位 台湾	43,474泊（31,384泊）	138.5%
4位 香港	28,557泊（28,422泊）	100.5%
5位 韓国	22,106泊（19,618泊）	112.7%